

その仕事を、機械に渡したあとで

年 組 番 名前 _____

基礎を固めるクラス 偏差値のめやす 40～50程度 主な学年のめやす: 高1後半～高2

この紙のゴール: 300～450語の初見の論説文を、段落の働きを追いながら読み、要点を自分のことばで書く / 目安15分(本文+設問)。本文はこの教材のための書き下ろし(初見用)です。

[1] Think of something you no longer do by yourself. Perhaps you do not add numbers on paper. Perhaps you do not remember phone numbers, or find your way without a map on a screen. A machine does it, and it does it well. It is not that you forgot how. You simply stopped.

[2] This is not a loss. Machines are better than people at many jobs. They do not get tired, and they do not lose attention after two hours. In many fields, giving work to machines has made things safer, and nobody who knows the numbers wants to go back.

[3] But a skill you never use does not stay still. It gets weaker. You do not notice this happening, because nothing goes wrong while it happens. This is fine while the machine works. The problem comes at the moment the machine stops, because that is exactly when the skill is needed, and by then it has been quiet for years.

[4] Airlines have thought about this longer than most. Autopilots fly better than humans on a normal day, so pilots use them. But airlines also ask pilots to fly by hand at times when nothing is wrong. The rule is written down, and it costs money to follow. The practice is not for the good day. It is for the bad one.

[5] So the question is not whether to use the machine. Of course you should. The question is what you keep doing by hand even though you do not have to, and why you chose those things and not others.

[6] Pick one skill this week. Choose one that would matter if you lost it. Do it the slow way once, when you are not in a hurry. You are not proving that the machine is wrong. You are keeping a way back.

〔語注〕 attention＝注意力 autopilot＝自動操縦装置 practice＝練習 proving＝証明する(prove)

本文には自由に書き込んでください。つなぎの語(But / Yet / however)に印をつけ、段落の左に「認める／切り返す／例／主張／提案」とメモすると、大問1がそのまま解けます。

その仕事を、機械に渡したあとで 設問

年 組 番 名前 _____

本文（1枚目）を見ながら答えてください。

大問1 段落の働き それぞれの段落が、この文章の中でどんな働きをしているかを選ぼう。

(1) [2]段落の働きとして、いちばん合うものは？ 思考・判断・表現 答え（ ） 3点

- ア [1]段落の具体例を、くわしく挙げている
- イ 筆者の主張を、はじめて言い切っている
- ウ 反対の立場にも言い分があることを、いったん認めている
- エ 読者にしてほしいことを、提案している

(2) 筆者が「でも、そうではない」と切り返しはじめるのは、どの段落の最初の文？ 思考・判断・表現 答え 3点
（ ）

- ア [2]段落
- イ [3]段落
- ウ [4]段落
- エ [5]段落

大問2 内容の読み取り 本文の内容に合うものを選ぼう。

(1) 機械について、筆者はどう述べているか。 知識・技能 答え（ ） 3点

- ア 多くの仕事で人よりすぐれていて、安全にも役立ってきた
- イ 人間の注意力にはとてもかなわないところがある
- ウ うまく動くのは短い時間だけだと分かっている
- エ 使わないほうがよい場面のほうが多い

(2) 使わない技能はとなると本文は述べているか。 知識・技能 答え（ ） 3点

- ア そのままの状態ですっと保たれる
- イ 弱くなっていく
- ウ かえって速く身につくようになる
- エ 機械が止まると自然にもどる

(3) 航空会社が、何も問題のないときにも手で操縦させるのはなぜか。 思考・判断・表現 答え（ ） 3点

- ア 自動操縦装置がこわれやすいから
- イ そのほうが燃料の節約になるから
- ウ うまいかない日のための備えだから
- エ 手で飛ばすほうが速く着くから

大問3 書いて答える 本文をもとに、日本語で書こう。

(1) 筆者が読者にすすめていることを、20字以内で書きなさい。 思考・判断・表現 5点

その仕事を、機械に渡したあとで（基礎） | 解答と採点

解答 選択問題

大問1 段落の働き		
(1)	ウ	This is not a loss. で始まり、機械のほうが優れている点を数え上げている。筆者は自動化を否定していない—ここを否定と読むと[5]の主張まで反転する。エは[6]段落。
(2)	イ	But a skill you never use does not stay still. が転換点。譲歩[2]→転換[3]→例[4]→主張[5]→提案[6]。
大問2 内容の読み取り		
(1)	ア	[2]段落 Machines are better than people at many jobs / has made things safer。
(2)	イ	[3]段落 It gets weaker. エは同じ段落の内容と食いちがう。
(3)	ウ	[4]段落 The practice is not for the good day. It is for the bad one。

記述の採点 模範解答と部分点の刻み

刻みは答案を見る前に配点を決めておくための表です。採点しながら基準を作ると、最初の10枚と最後の10枚で線が動きます。

大問3(1) 筆者が読者にすすめていることを、20字以内で書きなさい。5点

技能を一つ、たまに手でやる。

配点	その点を与える条件
3点	「手で（自分で）やる」にあたる内容がある
2点	「一つだけ」「たまに」など、量を限っていることに触れている

「機械を使うのをやめる」と書いた答案は0点。筆者は[5]で Of course you should. と使うことを認めている—大問1(1)と同じ力をここで測っている。



その仕事を、機械に渡したあとで（基礎） | 出題のねらい

出題のねらい 定期テストに移すときの観点マップ

「便利になった分、何を手放したのか」という論説の型です。譲歩がとても強いのが特徴で（自動化は事故を減らした、と数字の話まで踏みこむ）、そのぶん「筆者は自動化に反対している」と読み違える生徒が多く出ます。大問1(1)がそこを直接測ります。主張は「使うな」ではなく「使わない時間を意図的に作れ」なので、要約でも提案の向きを取りちがえると大きく落ちます。読んだあとは、身近な自動化（変換予測・地図アプリ・電卓）で同じ構図を書かせるとそのまま意見文になります。

型	観点	テストでの使い方
段落の働き	思考・判断・表現	論の展開の読解。強い譲歩を否定と読まないかを見る
転換点の特定	思考・判断・表現	譲歩から主張への折り返しを1文で指させるか
内容一致／下線部和訳	知識・技能	基礎・標準は選択、発展は和訳。抽象名詞と関係詞の精度
内容説明（記述）	思考・判断・表現	本文の抽象語を自分のことばに置き換えられるか
要約（20語）	思考・判断・表現	発展版のみ。譲歩・主張・結びの3要素で採点する

大問1は3版とも同じ問いです（段落が論の中でどう働いているか）。内容が取れているかではなく、論の運びが見えているかを測ります。

3つの版の使い分け

同じ英文の骨格（段落構成・論の運び）を保ったまま、語数・語彙・答え方を上げてあります（基礎300語=選んで答える＋日本語20字／標準380語=選択肢が英語＋日本語40字×2／発展450語=下線部和訳2・内容説明80字・英語20語要約の全問記述）。①クラスの帯に合わせて選ぶ ②同じクラス内で配り分ける ③基礎→標準→発展と学期をまたいで同じ英文に戻る—の3通りが使えます。③は「同じ話がどこまで読めるようになったか」を生徒自身が測れるので、学期末・学年末の振り返りに向きます。なお大問2以降は正解の記号を版ごとにずらしてあります（配り分けのときの写し合い対策）。大問1だけは3版とも同じ問い・同じ記号です—ここは測る力をそろえるための共通の骨格なので、あえて変えていません。